

令和7年度新潟県立阿賀黎明高等学校第3回学校運営協議会 議事録

1 日時

令和8年1月29日（木）13時30分～15時30分

2 会場

阿賀黎明高等学校 多目的ホール

3 参加者

委員7名

県教育委員会2名

（オブザーバー参加）

- ・阿賀町教育委員会学校教育課職員2名
- ・阿賀黎明探究パートナーズ関係者3名
- ・阿賀町社会福祉協議会職員2名
- ・阿賀町営塾「黎明学舎」講師1名
- ・阿賀町まなびの森交流館「緑泉寮」ハウスマスター1名

（視察）

- ・新潟県立新潟北高等学校教職員2名

（事務局）

- ・高校魅力化コーディネーター1名
- ・阿賀黎明高等学校教職員1名

計22名

4 次第及び概要

(1) 開会 校長挨拶（斎藤校長）

御多用の中、委員をはじめ、関係する皆様から出席していただいたことに感謝する。本日は、「県立高校の将来構想」推進事業（学校間連携）の一環として、県内の地域探究コースを置く4校（松代、阿賀野、羽茂、阿賀黎明）の2年生がオンライン交流会を実施することになっており、その活動の様子を参観していただく時間も設けている。これまでと同様に、今回も忌憚のない意見を出していただくことで、学校として今後のよりよい教育、運営につなげていきたい。

(2) 会長挨拶（遠藤会長）

昨秋以降、文化祭や阿賀町主催の「こども未来フォーラム」など、生徒が地域探究学習の成果を発表する姿を見る機会が複数回あり、地域の協力のおかげで、こどもたちが育っているということに改めて感じた。また、今年度も3年生が目覚ましい進路実績をあげているという報告を受けており、これまでの取組の成果が出てきていると感じている。阿賀町教育委員会としても、地元の高校に活躍してもらいたいという思いが強い。本日も、時間は限られているが、生徒のより一層の成長を支えるため、活発な議論をお願いしたい。

(3) 阿賀黎明高等学校の状況等

① 令和7年度の総括と次年度に向けた構想について（斎藤校長）

- 令和7年度の概況（在籍状況、生徒指導、教育相談、学校行事、部活動、進路状況）
- 令和7年度の実績
・ 生徒募集（阿賀町内中学校へ募集活動、隣接地域の中中学校への説明・案内配付、地域みらい留学募集活動）
・ 阿賀津川中学校との中高連携の推進
・ ボート部の存続
・ 地域探究活動の一層の推進
・ 生徒の学力差への対応
・ 教育相談や特別支援教育への対応
- 次年度に向けた、さらなる魅力化構想
・ 総合的な探究の時間の充実
・ 学校設定教科「地域学」の充実
・ 学類の特色の明確化
・ 部活動の魅力化
・ 進路実現に向けた取組の強化
・ 教育相談や特別支援教育の充実
・ その他（連携型中高一貫教育校としての連携強化、生徒の様子や取組などを広く阿賀町民へ情報発信など）
- ◎ 生徒の多様なニーズにできる限り対応できる学校、生徒の多様な学びを保障できる学校づくりを推進していく。

② 令和7年度の地域と連携した教育活動の進捗について（黎明学舎 渡邊講師）

ア 総合的な探究の時間（阿賀町さいこうプロジェクト）（主な内容）

【1年生】「福祉体験」、「ミッション型職場体験」の実施

【2年生】プロジェクトの設計、実施及び成果発表

イ 学校設定教科「地域学」（主な内容）

【2年生】・小出和紙や雪椿を導入とし、紙すきや草木染めを盛り込んだ企画の立案、実施、発表

・阿賀津川中学校1年生との中高連携

【3年生】・町の資源・課題を活用した企画の立案、実施、発表

・2年間の成果発表、感謝祭の実施

ウ 家庭科（主な内容）

【家庭基礎（1年生）】総合的な探究の時間と連動した「福祉体験」

【フードデザイン（2年生）】地域の郷土料理や特産物を活かした献立考案、実習

エ 学校行事・研修

【阿賀黎明探究パートナーズ】 体育祭や黎明祭でのペットボトル販売、マルシェ出店への協力

【探究学習に関する職員研修】 探究学習の指導の充実に向けた研修を2回実施

③ 令和8年度の地域みらい留学生募集活動について（西田コーディネーター）

○ まなび体験会（7～10月に4回開催）参加者数及びその傾向について

- ・参加者は計21名（複数回の参加者は重複してカウントしていない）で、昨年度より8名減少した。特に、中学2年生の参加者が0名（昨年度5名）、県外中学校からの参加者が9名（昨年度17名）で、減少が顕著であった。
- ・参加者数に対する入寮希望申込者数の割合は、まなび体験会の早い時期の開催回（7、8月）に参加した生徒の方が高かった。
- ・まなび体験会以外の現地見学希望者はいなかった。

○ 令和9年度の地域みらい留学生募集の計画について（主な内容）

- ・東京対面合同説明会の複数回（6、7月）参加を検討する。
- ・まなび体験会を、夏季休業中に3回実施することを検討する。
- ・地域・教育魅力化プラットフォームが主催する対面合同説明会やオンライン説明会に頼るだけでなく、独自（学校・魅力化プロジェクト）のホームページやSNS等でのより積極的な周知を行う。

④ 質疑応答・意見交換

○（猪俣副会長・質問）令和8年度の入学希望者数はいかがか。

→（長谷川教頭）特色化選抜の出願開始が明日（1月30日（金））からであるため、学校としては、阿賀町から情報提供を受けている入寮内定者数以外は、入学希望者数を把握できていない。

○（齋藤委員・質問）いじめ認知件数は昨年度より減少しているとのことだが、一方で、生徒数に対する保健室来室者数がかかなり多いように感じる。保健室を利用しなければならない生徒が相当数いるということか。

→（齋藤校長）怪我や急病で保健室を利用する生徒はほとんどいない。小規模校であることもあり、休み時間に気軽に保健室を訪れやすく、小さな相談ごとでも養護教諭を頼って来室している生徒が多い。

○（齋藤委員・質問）普通科として、生徒に総合的な学力をつけていくことも大切ではあるが、小規模校としてある分野に特化して魅力を打ち出していくことも考えるべきではないか。

→（齋藤校長）来年度から、学校設定教科「地域学」において、農業を1つのテーマとして探究活動を進めることを検討している。専門高校のような教育課程を編成することは難しいが、総合的な探究の時間や「地域学」で分野に特化した学習活動ができると考えている。

- （清田委員・意見）保健室来室者数が多い状況は、養護教諭の大きな負担である
と考える。改善を図っていくべきである。
- （清田委員・質問）欠員補充のための2次募集の合格者が、緑泉寮に入寮できな
いという状況は改められないものか。
→（阿賀町教育委員会学校教育課 讃岐課長補佐）例年、地域みらい留学生の募
集については、11月10日頃に申込を締め切り、下旬にオンライン面接を行っ
て、12月中旬に内定通知をしている。緑泉寮には定員もあり、例年、定員以上
に入寮希望者がいることから、12月の段階でも希望者全員には内定を出せてい
ない（今年度は希望者14人中内定者9人）。よって、3月に新たに入寮許可を
出すことは非常に難しい。
- （清田委員・意見）SNSを利用して学校の魅力を発信することは、入学希望者
増加に向けた有効策ではあると思うが、発信回数を増やすことは、職員の負担増
につながる恐れがある。生徒会などを利用して、生徒から発信するようにしたら
よいのではないか。
- （阿賀黎明探究パートナーズ 清野監事・意見）阿賀町内の中学生の意見を聞いて
、阿賀黎明高校を選ばずに他の高校に進学する理由を1つずつ解消していけた
らよいのではないか。また、進路状況を阿賀町の広報に掲載して、幅広く進学、
就職できるということをアピールしていくべきである。

(4) 指導・助言（齋藤指導主事）

- 令和2年度からコミュニティ・スクールに指定され、今年度で6年目が終わる。
ここで一度総括して、今後の取組を考えていくときである。学校運営協議会を中心
とした地域の協力により、県外の中学生には魅力が伝わっているようであるが、地
元の中学生には届いていない状況が課題である。学校の魅力化は、教職員だけで進
めることは難しいことから、引き続き、地域の皆様からの協力をお願いしたい。
- 来年度新設の新潟県立碧高等学校は、県立高校2校目のコミュニティ・スクール
に指定される予定である。阿賀黎明高校の学校運営協議会の在り方を参考にしたい
と考えている。
- 文部科学省から「ネクスト・ハイスクール構想」が示されており、県教育委員会
として、どのように取り入れていくか検討しているところである。また、県教育委
員会としては、昨年度から2年間、県立高校6校を「高校と地域との連携・協働体
制構築事業」に指定して、学校と地元自治体等との連携・協働した体制構築及びそ
れに関連した取組を支援してきた。この事業の実施にあたっては、阿賀黎明高校の
地域連携の取組を参考にしてきた。6校は、来年度からは自走化する段階に入るこ
とになるが、引き続き、阿賀黎明高校の取組が参考になるものと考えている。

(5) 熟議（進行：西田コーディネーター）

テーマ「高校魅力化評価システムをふまえた阿賀黎明高等学校の学校運営における評価の重点項目について」（第2回学校運営協議会の続き）

- ① 高校魅力化評価システム及び前回した検討したことの確認
- ② 個人ワーク：生徒アンケートの「生徒の自己認識」に関わる項目の中で、「主体性」、「協働性」、「探究性」、「社会性」のそれぞれから、重点であると考えられるものを選ぶ。
- ③ グループワーク：②で選んだ項目を共有し、学校としてどの項目を重点とするか検討する。

→ 重点とすべき項目としてより多く挙げられたものを、令和8年度以降の学校運営における評価の「重点項目」として、アンケート結果を注視していくこととする。

(6) 閉会の挨拶（猪俣副会長）

本協議会は、前回から、委員だけでなく出席者全員を1つの円で囲む形にしたとのことであるが、ぜひ今後もこの形を継続して、委員以外からも積極的に意見を聞き、この地域だからこそできる学校運営協議会にしていきたい。入学希望者が少ないという課題に対しては、解決が難しい状況もあるが、特に保護者世代への情報発信に力を入れて、学校の取組をアピールしてほしい。遠隔授業の実施や県内外の高校とのつながりなど、阿賀黎明高校には他校にはない魅力があり、小規模校ならではの強みがあるということを広く知らせてもらいたい。